

議会改革特別委員会

(平成30年 7 月 20 日)

○ 豊田政典委員長

皆さん、こんにちは。

議会改革特別委員会を開催いたします。みんなでつくろう新しいシステム、これを合い言葉でやっております。

○ 諸岡 党委員

いつ決まったんですか、それ。

○ 豊田政典委員長

中森委員からは欠席の連絡をいただいております。

本日は、前回に引き続きまして、議会の政策サイクルについて、議論が及びましたら、各種任期についても議論ができればなと思っておりますが、2ラウンドぐらい、1ラウンド1時間で休憩を挟んで、2ラウンドぐらい集中的にお願いしたいと考えております。

まず、そこでプロジェクターを使いながら、今までのおさらいも含めて振り返っていただきながら進めていきたいと思っております。

前回、正副委員長案を提案して、各会派でそれについて、それから各種任期についてご議論くださいということをお願いしました。前回の振り返りをする中で、論点をちょっと分けながら、整理しながら皆さんの意見、会派の意見、団体の意見を聞いていきたいと思っておりますので、こんな感じで進めさせてください。

それじゃ、まずは、全体的なスケジュールを改めて確認させていただきたいんですけれども……。

○ 加納康樹委員

前回のときから不思議やったけど、何でポインターじゃないの。

○ 諸岡 党委員

うん、私もそう思った。

○ 豊田政典委員長

ポインター。済みません。アナログなので。

この委員会のスケジュールですけど、きょうが③の3回目でございます。8月1日以降、3回決めていただいていると。その後、あと3回ぐらいお願いできないかと思っておりますが、議会の政策サイクルについては、前回提案して、今がここですね。4回目、5回目になっていますが、4回目ぐらいで固めていけるとありがたいなど。

任期についても、今回ぐらいから本格的に、あわせて固まってきた段階で、議会日程の合理化というのを考えていただくとともに、昨年度の決算常任委員会からいただいております事業評価カルテをどうするんだということもどこかで議論しますし、議員間討議のきちんとした位置づけ、会議規則への位置づけという宿題もいただいておりますから、8月の3回の中では固めていきたい。

ほかにも、各派代表者会議からは、昨年度、議選監査委員についてもここで扱ってほしいという約束をしていますので、そんなこともこの中でやりたいなど。

その固まったというところまで何とか持って行っていただいて、8月定例会議の後に、各種の関係例規等の改正の話をさせていただいて報告書をまとめ、こういうふうの流れでいくと。何とか改選後に間に合わせたいという、そんなスケジュールでありまして、これ、皆さんの頭の中でまた確認しておいてください。

それでは、前回のおさらいから行きたいと思しますので、事務局のほうで概略を説明いただけますでしょうか。

○ 栗田議会事務局主事

それでは、事務局のほうからご説明させていただきます。

前回の概要というふうなことで、会議用システムのほうでございますけれども、14特別委員会をお開きいただきまして、03議会改革特別委員会、それで、済みません。前回の概要ということでございまして、前回の概要につきましては、02の平成30年7月10日というフォルダーの中に概要のほうを入れさせていただいておりますので、そちらの4番目、議会改革特別委員会概要、平成30年7月10日という資料をお開きいただければというふうに思っております。

よろしいでしょうか。

○ 豊田政典委員長

はい。

○ 栗田議会事務局主事

前回の概要というふうなことでご説明のほうをさせていただきますけれども、まず、議会の政策サイクルについてということで、前々回に当たります6月7日において資料請求、幾つかいただいてございまして、全部で5項目いただいてございまして、こちらのほうの説明をまずさせていただいた上で、議論のほうにお入りいただいたというふうなところでございます。

正副委員長様から、本市議会における現状の取り組みとその課題についてというふうなところについて、資料に基づき説明がございまして、加えまして、議会基本条例の基本方針でございます三本柱、これをより充実し、市民等の生活及び福祉の向上につなげていくためには、三本柱のうちの議員間討議と、あと政策提案、これをより強化していく必要があるんじゃないかというふうなことで、これらをうまく活用しながら、より効果を高めていけるような政策サイクルの構築、これが必要だというふうな観点から議会の政策サイクルの構築に係る正副委員長案、これが示されて議論のほうが行われたと、このような流れで進められたところでございます。

委員様から出されました意見につきましては、中段以下のところに、委員から出された意見等というふうなことで記載がございまして、順にご説明させていただきますと、まず、政策サイクルの構築についてという部分の決算審査と予算審査を連動させるサイクルの部分でございますが、サイクルの構築の必要性についてというふうなところで見出しのほうも設定いただいてございまして、これらはまず、委員のほうから決算審査と予算審査の連動、これだけを考えるのであれば1年間でも実施できるのではないかと、また、現状においても、各委員が執行部に対して指摘をして、その進捗状況について個別に管理すると、こういうふうな形で審査のほうが進められているのではないかとというふうなことでご意見がございました。

これに対しまして、正副委員長様からでございますけれども、こちらは8月の決算審査、それから翌年度の予算審査だけではなく、執行状況の検証を翌年度行うということも必要ということで、政策サイクルが必要だというふうなご意見。

それから、ほかの委員様からは、確かに個人としてそういうふうな進捗を管理するとい

うことは行われておりますけれども、市議会として目に見える形でシステム化されていないんじゃないかというふうなことで、正副委員長案は個人的には有効じゃないかというご意見がございました。

それから、2番目、執行部への提言手法についてということでございます。

こちらは、事業評価カルテ、それから附帯決議等ということで、今、正副委員長のほうから提案がございますけれども、どういうふうな手法で提言していくのかというところで議論のほうが行われたところでございまして、これは附帯決議がいいんじゃないか、それと、附帯決議、事業評価カルテの両方とも有効じゃないかというふうなご意見がございまして、それから次のページをお開きいただきまして、正副委員長様から、こちらは附帯決議というのは、議会が付す決議ということで、定例的に付していく取り扱いについて少し迷いがあるんだというふうなことでご説明がございまして、また、事業評価カルテを導入していくに当たっては、前年度の決算常任委員会での議論の経過を踏まえまして、5段階評価とか点数化を含まないような形を現段階では想定しているということで、いずれの手法が望ましいのか、一度、会派等で検討をいただきたいということでおまとめいただいております。

それから、二つ目の政策提言を目指すサイクルのほうでは、一つ意見がございまして、こちらは2年間議論をしていくというよりも、毎年テーマ設定を行うほうがいいのではないかというふうな意見がございました。

それから、委員の任期についてというところでございますが、こちらにつきましては、委員の任期を仮に2年にしたとしても、2年目から3年目には、引き継ぎのタイミングが発生するというふうなところでございまして、これを年間白書で引き継いでいくのであれば、別にその委員の任期を2年化せずに、1年でずっと年間白書で引き継いでいけばいいんじゃないかと、こういうふうな論点でのご意見がございました。

それに対しまして、各委員から発言のほうがあったところでございまして、いや、2年から3年目に移行する際には、より中身の濃い年間白書が作成されて、引き継いでいかれるというふうな理解でいいのではないかということとか、あとは、委員の任期を4年間とするのが理想というふうなところの中で、まずは、委員の任期を2年として実施して検証していくというロジックであればいいのではないかという意見が出されたところでございます。

それから、二つ目の黒ダイヤでございまして、委員の任期を2年にするに当たっては、

正副委員長の任期も2年を想定しているのかということでご質問がございまして、正副委員長様のほうから、今後協議していきたいと考えているが、4常任委員会の委員及び委員長の任期は2年とする、これが望ましいと考えているというふうなご発言があったというところでございます。

また、議長の任期についてでございますけれども、こちらにつきましては、委員からの質疑を踏まえまして委員長のほうから、サイクルの構築による委員の2年化というのは、4常任委員会の委員を想定しておりますけれども、この際、議長の任期を2年化することについても検討していくべきというふうに考えておりますというご発言がありまして、それを受けまして、ほかの委員から、議長の任期の2年化を検討するのであれば、現状の1年任期における課題点等を整理した上で検討を行うべきというふうなことでご意見があったというところで、最終的に、確認いただいた事項というふうなところで読み上げさせていただきますと、議会の政策サイクルの構築に係る正副委員長案について、本日出された意見等を踏まえ、各会派及び団体において議論の上、意見をまとめていただくこととし、また、正副議長の任期についても、各会派等で議論を行っていただくこととしたというふうな形でおまとめいただいております。

済みません。長くなりましたが、以上でございます。

○ 豊田政典委員長

ありがとうございました。

プロジェクター、スクリーン、97の5を映してください。97の5。

それで、大きく分けますと、もうちょっと上、サイクルの中に二つあって、1のほうが決算から予算への流れ、これですね、こういうやつ、それから二つ目が、主に常任委員会の中でテーマを決めて、1年、2年やるというやつが二つ目。三つ目が任期ということで、まずは、この1番の決算審査を予算審査にどう生かして行って、どう検証するか、このことについて皆さんの意見をいただきたいので。

もう一個映してください、97の6。

そのために、少しわかりやすくということで、前回の委員会の後、事務局のほうで4年の流れを、これ、配信させてもらったんですけど、4年間の流れを見ると、こういうふうになるんじゃないかと、正副案ですね、正副委員長案。

きょうの97の政策サイクル関係の6番に入れてもらっていますが、例えば平成31年度で

考えると、まずは決算審査をすると、平成30年度予算について。提言をまとめて、これに対応状況を報告受けながら予算審査に生かしていく。これが1年目です。

2年目になると、同じことをやるんですけれども、加えて、平成32年度予算の執行状況の検証を行うと。三つ、今やっているのはこれとこれですね。これもやっていると言えばやっていますが、このシステム化をして3点をやると、1年につき3点をやる。

それから、委員任期のところに関しては、ここまでが2年同じメンバーなので、ここでメンバーが変わりますから、ここは文書、年間白書等で引き継いでもらう、ここもそうですね、この5年目にかけても同じことになると思います。

そんなことも見ていただきながら、この一つ目の決算審査から予算審査にかけての、また、執行状況の検証にかけてのサイクルについての皆さん、それから会派団体の意見を出していただいて、いい案をつくっていきいたいなというところです。

どなたからでも結構です。意見をください。

○ 加納康樹委員

このサイクルのところでのうちの会派として意見が出たところは、これ、改めて言うまでもないんですが、会派でやっぱり意見が出てきたのが、要は決算から予算へというところ、例えば今から8月で、私たちが審査するのは平成29年度の決算なんだけど、じゃ、それに向けて附帯決議をつけるなり何なりして、それを予算に反映させるというのは、1年飛んで平成31年度の予算に対しての反映しかできないという、これが議会としてというか、対役所に対しての決算、予算というのが、どうしても1年飛びでしか生きてこないというのは致命的なところなんだなという話が改めて出てきています。

ですので、それに当たっては、この政策サイクルというのは悪くはないんだけど、もちろん、これは確立しつつも、単に決算を予算にだけではなくて、予算編成の前に、常に何か議会から予算編成に対して物が申せるというふうなところも何か持ってこれないのか。例えば今、委員長から説明してもらったものでいくと、2年目以降、執行状況の検証というものが真ん中には入ってきているけど、これが検証にとどまらず、やっぱり執行状況の検証もするんだけど、直ちに予算審査へ、四日市市役所でいくと、サマーレビューだの、云々やってやっているやつ、そこらに対して常に何らかのアクションが起こせて、よりタイムリーに予算審査に対して物が言えるという、そういうサイクルというのも、これだけやるんだったら、せっかくだったら1年飛びではなくてやれるというものも必要なので

はないのかなというところの意見がありました。

○ 豊田政典委員長

ありがとうございます。

このサイクルの案でいくと、8月定例会議会で決算審査をしますから、そこで決算を見ながらの提言、提案になっていくけれども、例えばスプリングレビュー、サマーレビューを追っかけながら、さまざまな議会意見を集約したものを予算編成前に全部まとめて提言にしたらどうか、そういう捉え方でいいですかね。

○ 加納康樹委員

そうですね。そういうエッセンスも当然、1年飛びではなくて即反映させるようなシステムというのも、せっかくだったら必要じゃないのという、そんな意見です。

○ 豊田政典委員長

いいですね。

○ 加納康樹委員

嫌がるでしょうけどね、向こうが。

○ 豊田政典委員長

嫌がられますね。議会も忙しいですけど、予算常任委員会に頑張ってもらわなアカンですけど。

今の意見についてでも結構ですし、ほかの全く違うサイクル絡みでもいいですけど、どうでしょう。

太田委員、どうですか。

○ 太田紀子委員

私は、話をしていたら、2年というイメージがなかなか湧かない、予算審査、決算審査のそこに対しての物の申し方というか。だから、その辺をもう少し詳細に探っていくとか、構築していくことが必要なんじゃないか。そのさっきの話じゃないけど、間隔があ

き過ぎるみたいな感じになる感が否めないよねという、そんな話が、豊田祥司議員とですけど、話をした中で。だから、今現在でも、割に反映されていない部分が多いのに、2年にするということでもっと間があいてしまうのではないかという、そういう危惧感というか、それは話として出てきました。

○ 豊田政典委員長

委員の任期を2年にして、2年のサイクルにすることによって、さらに間があくというのは、どういうことですか。

○ 太田紀子委員

結局、今1年でやっていることが、2年のサイクルの中でしか動かなくなるような、そういうあれではないから、もっとスピード感というのかな。すぐに反映させるぐらいの、そういう討議であったり議論であったりというのを活発化させる、そっちのほうが必要なんじゃないか。

これがあれやで2年間あったら、その2年の間に考えればいいじゃないかという考え方におさまってしまうと、どうしても今1年で考えていたことを、2年あれば2年で考えればいいやというような考えに陥ってしまうと、逆に2年という期間はいかななものかって。やってみないとわからないというのが正直、あるんですけども。

やってみて、そこでスピード感を持ってできるという内容にすることが大切なのかなって思うんですけども、それ以前に、どうしても私らの中では、今まで1年間ですてきたことを2年間でというイメージをしてしまったもので、そういうスピード感が落ちるんじゃないかという。何か1年間でやってもいかがかなって、ちょっと遅いんじゃないかなって思う部分もあったもので、余計に2年というイメージがなかなかできない。

○ 豊田政典委員長

間違っていたらごめんなさい。今の話は、サイクルの中の二つ目の常任委員会に共通テーマをつくって、2年かけて提言していこうという二つ目のほうにより関係のある意見かと思しますので、これ、少し記録しておきますが、待ってくださいね。

ありがとうございました。

ほかの委員の皆さん。

○ 中村久雄委員

今の加納さんのところの話なんですけど、例えば平成29年の決算をこの8月からやると。平成30年度の予算、2月の予算に対して、サマーレビューはやっておるので、大枠はもうほとんど平成31年度の予算は固まりつつあるんでしょうけれども、ある部分というか、決算でやっぱりこれはおかしいよねと、これはちょっと考え直したほうがいいよねということは、今でも平成31年度の予算に、次の予算に反映することはあり得ますよね、今でも。その中で、だから、そういうことと、大枠はほとんど決まっておるので、1年間、平成31年の委員会でそれをやっていこうというのはよくわかるんですけども。

それが一つね。それと、うちの会派から出た意見は、市議会としてのシステムがないと。今でも、例えば任期にしても、今でも自分が希望すれば、そこへ続けて行けるわけだし、議長にしても1年の任期で決まったものじゃないと。辞表を出して、みんな辞任をしておるけれども、そういうものでもない。やろうと思ったらできることやで、形を気にしても、それはそんなもん、形ばかり気にしてもあかんやないかというような声が大勢でしたね。

ただ、やる部分には、こういうふうに四日市市議会としての、なかなか形としてのシステムがないというのは皆さん理解していますから、個々の能力の部分がやっぱり大きいかなということですけども、それに反対するわけじゃないけれども。

あと、最後まで言いますと、もう一点が、三重県議会でも、議長なのかな、これを1年任期から2年任期にして、また1年任期に戻したと。やっぱりそういうこともあるので、何がええのかようわからんけれども、実際、これでスタートしてやってみてあかんだとき、ちょっと問題が出たときには、また振り返ってまた戻すとか、また違うことを変えるとかというところは、押さえておいてほしいなという意見が出ています。

以上でございます。

○ 豊田政典委員長

ありがとうございます。

三つほどいただいた意見で、二つ目、三つ目は任期の部分なので、そこはまた後にしますけど、一つ目の現行、今のままでも予算編成に議会意見が反映されているじゃないか、そういう部分もあるんじゃないかという話は、そうだと思いますけど、よりシステム化し

たほうがわかりやすいし、現行を否定するものではないですから、そんなにそこはないのかなというところですよ。それでいいですかね、政策サイクルについては。

○ 中村久雄委員

おっしゃるとおりで、それが今、個人個人でやっている部分ですよ。

個人個人として、豊田議員としてもう一年、この議会の……。

○ 豊田政典委員長

それは、任期やね。

○ 中村久雄委員

そうそう。常任委員会とか、決算審査と予算審査にしても、それを見るって形で、ウオッチする。そういうのはやっているの、これは四日市市議会として、そういうのがあんまり明確なシステムになっていないことは、みんなわかっています。

○ 豊田政典委員長

はい、わかりました。

ここらで副委員長、どうぞ。3人の——太田さんの意見は二つ目の項目ですけど——意見を受けて。

○ 中川雅晶副委員長

会派としても議論してきて、こういうサイクルは必要やろうというところで、この原案に対してという部分はやるべきやという意見と、それから、当然、決算審査を予算審査につなげようとなれば、提案のあったように、今ここは事業評価カルテとかって書いてありますけど、そういうツールは必要であろうというところは合意いただいたというところで。

やはり、先ほど加納委員が言われたように、システムに落とすと、どうしても機能的に1年前の決算をして、1年置いて、その次の年の予算に反映していこうというのがスピード感がないというか、もう既に現年度の予算が動いている中で、その予算の中も決算から見えたところを、今どういような進捗やというところを少しさわることによって、次年度の予算も触れるというような一つのショートカットじゃないですけど、このサイクルで

はないところを、現実でも本当はそういうことをやっているのを少しシステム化したらどうやという意見も、コメントの中ではあったというのはあるし、全く同じような考えです。

○ 豊田政典委員長

政策サイクルをつくったとしても、それ以外はできないよということじゃなくて、レビューの話も出ましたけど、より臨機応変にというか、タイムリーにその都度やっていけば、提言に盛り込んでいけばいいんじゃないかということは私も思います。

新風創志会さん、どうですか。

○ 諸岡 覚委員

基本的には、この正副委員長案でいいんですけど、これ、会派の意見じゃなくて、今話を聞いていて思った意見ですけど、それを述べてよろしいですか。

○ 豊田政典委員長

はい。

○ 諸岡 覚委員

まず、一つ太田さんが言われたところでいうと、この図式、これのもう一つ向こう側の表になっておるやつですよ。その図式が多分、目視すると1年あくように見えてしまうんだけど、実際は、別に1年あけていないんですよ。そうするとこの図式が、どうしても図式にするとうなってしまうんだろうけれども、目視したときに、ちょっとおかしい見え方をしてしまう。実際、別に1年あくわけではないと思うんですよ。

ちょっと思ったのが、決算審査から次の直近の予算に対する反映というやり方をすると、どうしても中に1年あくんだけど、3月に予算が立つじゃないですか、成立するじゃないですか。その段階から成立した予算について審査をしていけば、ストレートに去年の予算に対して議会がこういう意見を述べて、例えばそれを8月定例会議に、3月に立った予算に対して8月定例会議で議会から意見を述べて、翌年の予算に反映させることができる。

だから、決算審査を原点にするんじゃなくて、成立した予算に対して議論をしていくという形にしたら、それこそ太田さんが言われたような、もっとスピーディーな対策が立

つんじゃないのかなって、今話を聞いていて、ふと思ったんですよ。

○ 豊田政典委員長

途中ちょっとわかんないところが、3月の時点で……。

○ 諸岡 党委員

審査していますよね、予算を。

○ 豊田政典委員長

翌年度予算の。

○ 諸岡 党委員

はい。

○ 豊田政典委員長

意見を出しますよね。

○ 諸岡 党委員

ええ。

○ 豊田政典委員長

それをまた6月定例会議会でも同じことをやるわけですか。

○ 諸岡 党委員

要するに、2月定例会議会の予算審査がありますよね。そこでいろんな、さまざまな分野でさまざまな議論がされるじゃないですか。ここは、こうこうこうで、本当はもう少し予算が必要なんじゃないかとか、そういう議論もあるじゃないですか。あるいは、こんなに要るんかというような議論もあるじゃないですか。それらの委員長報告を踏まえた上で、その委員長報告に基づいた審査を9月、10月までにびゅっと4月からやっていくことによって、翌年の予算に垂直に反映できるんじゃないのかなって。

○ 豊田政典委員長

つまり、2月、3月の予算審査は……。

○ 諸岡 覚委員

もう既に了とはしたものの、委員長報告の中でいろいろあるじゃないですか。

○ 豊田政典委員長

もう既に執行部側は予算案として固めてきているので、そこへなかなか修正というか、増減はできない。それは一旦認めるけれども、来年度、次の年度は、この4月の議論から、次はこうせえよというので議論をスタートしたらどうかと。

○ 諸岡 覚委員

そのほうが早いのかなって、今ふっと、ここでの話をしておって思ったんですけれども。これ、会派の意見じゃなくて、今ここで感じた私の意見です。

○ 豊田政典委員長

結構ですけど。

今の意見どうですか、ほかの皆さん。

○ 土井数馬委員外議員

そういう考え方もあると思うんですけれども、ただ、やっぱり予算は執行していくわけですわね、行政側が。最終的に、やっぱりどこまで執行できるのかというのは、決算で見ないと最終的にはわからんと思うんですよ。途中でいろいろ審議しても、結果を見ないと、次にはつなげていけないんじゃないかなと思うんですがね。その辺ちょっと矛盾を感じるんですけれども。

それと、いいですか、ついでに……。

○ 豊田政典委員長

ちょっと待って。

○ 土井数馬委員外議員

サマーレビュー、スプリングレビューの話ですが……。

○ 豊田政典委員長

関係あるなら言ってください。

○ 土井数馬委員外議員

一応関係あると思うけど、遠くは関係ある。

○ 豊田政典委員長

はい。

○ 土井数馬委員外議員

レビューって、まだ、あれ、やっておるんですかね。

やっておるんですね。あれ、今のような形になっている前かもしれんけど、サマーレビュー、あるいはスプリングレビューが出たときに、それに対して提言なり意見を書面にして出しておった覚えがあるんですよ。それは会派でやったのかもわからんけど。直接、副市長の家に持って行って、そういったことがあったもんですから。

○ 豊田政典委員長

知らん。

○ 土井数馬委員外議員

いや、僕らはやっておったんですけども。ただ、そういうこともありましたので、だから、そういう途中での、今、諸岡さんの言ってみえたのとほぼ似ているんじゃないかと思うんですけど、予算案を出されて、それに対して提言を出していくと。ただ、やっぱり最後の決算をしないと僕はわからんのじゃないのと思いますけどね。

○ 豊田政典委員長

私の見解もまぜて言うと、確かに予算審査の中で可決はするけれども、賛成はするけど残った部分、意見が残って、委員長報告なりに書かれます。スタートのタイミングの話だと思んですけど、例えばスプリングレビューから始めるにしても、その報告書は議会が共有して持っているわけですよ、問題意識もね。これを当然、頭に置きながらスプリングレビュー、サマーレビューを見ていって、これを盛り込んでいけばええのであって、だから同じなのかなと思んですけど。どこが違うのかな。それ、大事なところなんですか。予算から始めよというのと、レビューからというのと。

○ 諸岡 覚委員

私は、基本的にこの正副委員長案でいいですよ。会派としてもそれでいいんです。ただ、今の皆さんの話の中で、全体的にもう少しスピーディーにという意見が幾つか出ていましたので、であるならば、決算を待つのではなくて予算が立った段階で、その予算に対してやっていったほうがよりスピーディーに行くんじゃないかという一つのアイデアとして出ただけで、別にそれにこだわるつもりはありません。

○ 豊田政典委員長

加納委員の発言から、ずっと私の考えも土井議員の考えも、もしかしたら副委員長の意見も、そのスタートの時点がちょっと早まってきているわけです、頭の中で。原案、正副委員長案よりも。正副委員長案は、決算審査のときからスタートみたいなイメージだったんですけど、もう少し前倒しして、前倒しというか、予算に向けた議論を少し早めますよね。それにちょっと引っ張られていますけど、こういうのでいいんですか。

○ 伊藤嗣也委員

実は、きちっと固めていったほうがいいという意見が我々の会派でもありまして、例えば事業評価カルテ一つつくるのも大変苦勞した記憶があります、内容、中身につきまして。

○ 豊田政典委員長

内容をね。

○ 伊藤嗣也委員

はい。カルテがやっとできた、だけど、それを本当に運用していくということがやっぱりまだ不安な部分もありまして、だから、議会の武器と、武器といいますか、進めていく中には、カルテと附帯決議、基本的にはその二つのカードがあるのかなど。その中で、カルテをやっとこさ今つくって、私としては、会派の了解を得てつくった中で、やっぱりここをきちっと固めていきたいというのがありますよね。会派の皆さんからも、きちっと固めていかないと、あんまりスピードを上げていくのは気をつけろというような話もありましたもので、そこだけをお伝えしておきたいなど。

○ 豊田政典委員長

カルテというか、形をどうするかという話が先ほどのおさらいのところに出てきたので、少し、これ、考えてもらうために参考になると思いますから、二つ目の論点として置いていたのが、提言の手法ですね。

今、伊藤委員が言われたように、昨年度の決算正副委員長には随分ご苦勞をかけて、何らかの形でつくろうまでは決まったと思うんです。ただ、その形式とか、点数化するのかなとか、そこまでは決まっていないと僕は思っています、議員間討議をやろうと、カルテらしきものをどうするかというのもこの委員会で、特別委員会でもんでくれという宿題をもらっている段階で、完全にカルテをやるとは決まっていないと思っています、たしか、これ。

それで、今関係あるので、次のやつ出して。これは、どこにあるのかな。ちょっと事務局、どこのどこって言ってください。

じゃ、紙で配ってください。失礼しました。映すことはできやんね。

○ 栗田議会事務局主事

映すこともできます。

○ 豊田政典委員長

じゃ、映して。

今配ろうとしているのは、今年の議論も踏まえて、正副委員長のイメージ、正副委員長案というか、こんなレベルでどうだろうかと、まずは。名前も含めてちょっと考えてみたんですが、一つカルテというと、何か去年の議論を引っ張りがちなので、名前も変えまし

て、提言シートという形で名前を決めて、これ、8月定例月議会になっていますが、決算の何とか分科会、事業名があって、事業概要、翌年度への提言がある、それから金額が書いてあるんです。これが1枚目です。

2枚目が、記載イメージということで、昨年度の産業生活分科会のをちょっと使わせてもらいまして、ファミリー音楽コンクールについて、仮にこれを置いたらどうなるかというのでつくってもらいました。

これは、分科会長報告が文書に書いてあるやつを整理して提言という形で、下の1、2、3にまとめたような形です。

この案では、カルテの案にあったように、5段階評価とか、そういうのはつけていません。これ、賛否両論になったので、なかなか全体の合意を得るのは難しいかなと思って。ただ、提言の中に少し予算についても意見が出ていると、黄色の1番なんかはね、予算をかけていてもということ。

このレベルのものを、これ、甘いって言われるかどうかわかりませんが、予算編成に向けた提言というのを議員間討議して、ある程度集約できた事業については、こういうシートをつくって、これを何枚か集めて、このもともとのサイクルの執行部への提言というやつにまとめていくということでイメージできないかなというので、つくってみました。

これは8月に始めるのか、先ほどから出ているように、レビューの段階からできるものもあるかもしれない。こういうのを集めて、どこかの段階で、8月定例月議会の終わりぐらいに全体会でもんでみて、これ、全議員の集約提言にしていいかみたいな形にして、集約されたものを出して、予算編成に生かしてくれというイメージなんです。

○ 伊藤嗣也委員

先ほどは済みませんでした。ちょっとこのようなものをつくってもらったなんて済みませんでした。私、カルテ、やはりちょっと思い入れが強かったもので、会派を突破するのが大変でしたもので。

○ 豊田政典委員長

ご苦労さまでした。

○ 伊藤嗣也委員

どうしても出てしまいましたけど、済みません。こういうのでいいと思うんですけど、要は何年間か補助金とか委託とかをやっていたり、同じぐらいの金額でやっている事業で、これ、どうなるのというのは結構あるわけですね。そういうのにやはり機能をまず、この仕組みを発揮させていくことからでもやっていければというふうに私は思っておりますので、やりやすいやつといたしますか。

○ 豊田政典委員長

はい。入りやすいやつからね。

○ 伊藤嗣也委員

はい。何かやっぱり入り口を余り大きく、やりやすいやつでいければというふうな、私が、これ、思っている意見としてです。

○ 豊田政典委員長

ほかの方、どこからでも結構ですけど、これ、1番目のサイクルについて。

だから、私しゃべっちゃいますけど、レビューから入るパターンもあれば、8月定例会議会の決算から入るやつもある。それから、2番目の常任委員会の日々の活動で、共通テーマとは別の所管事務調査や協議会をやると思うんですよ。そこから出てくるやつもあるかもわかりませんよね、もしかしたら、予算に向けて、個別事業については。そういうのを8月ぐらいの時点で出し合って、どこまで集約でき、提言集にできるか、そんなイメージでどうかなということなんですけど、どうですか。

○ 伊藤嗣也委員

そうすると、決算審査にこだわらんという、今委員長の考え方でよろしいですか。

○ 豊田政典委員長

ちょっと副委員長、整理してください。わからんようになってきた。

○ 中川雅晶副委員長

これは決算審査をベースに置いてのツールにということではしているんですけど、確かに

今おっしゃったように、決算審査が終わって、もう現年度の予算がスタートしている中で、先ほど言ったところの議論をする中において、今のスタートしたものの、いろんな課題があるというところであれば、こういうようなものも使えなくはないかなって思うんですけど。

ただ、このサイクルのイメージで、このサイクルをしっかりと構築をすると。このサイクルに当たっては提言シートを活用するとなれば、このサイクルという観点から言えば、決算のときに使うということにしておいたほうが整理はつくかなと思うんですけど。

ただ、でも、日ごろの所管事務調査とか、いろんな予算審議を経ていく上でいろいろ議論する中において、実際のところは、こういうことをこういうようなことの内容で議論をしていくのかなと思うので、そのときに手元で活用することについてはいいのではないかなという程度ですかね。

○ 豊田政典委員長

うん。最初、加納委員のリベラル21さんの発言から始まったんですけど、スピード感を持って決算審査まで待たなくてもという話をされましたけど、そうすると、僕が勝手にこうしたらどうだというのは、8月まで提言集がまとまらないんですけど、その辺はいいんですかね。もっと早く投げたほうがええのかな。

○ 加納康樹委員

ですので、うちも新風創志会さんと同じようなところで、別に、この正副委員長案で出てきた2年のサイクルというのが別に悪いわけではない。別に、それを基準としつつも、それだけではもったいないので、もっとダイレクトに予算に対して物が言えるシステムというものがやっぱり要るんじゃないのかと、よりタイムリーに。それが、やっぱりレビューとかに物を言っていくというというのはタイムリーに予算に反映を、1年置かずにやれるというところではないのかなという感じですので。

正副委員長案をベースにしつつ、もうちょっと矢印を突っ込んでもらうような、そんなことのサイクル案になるとうれしいなという感じなんですけど、おわかりいただけますでしょうか。

○ 豊田政典委員長

例えばスプリングレビューでやっているのかどうか知りませんが、6月にあったとしますよね。そこで、予算常任委員会の全体会でいろいろやり取りをして、まとめができるとして、これはこれで投げますよね。投げようが投げまいが、向こうには響くわけで。それも改めて8月の時点で、もっとそこまで決算審査時とあわせて提言集をまとめて、改めて投げる。そんな感じでいいんですかね、タイミングは。

○ 加納康樹委員

その投げるタイミングというところまで会派の中で合意はしていませんけど。じゃ、いつなのかというと、今委員長がおっしゃっていただいたぐらいのタイミングぐらいしか無理かなとは正直思っています。6月でやって、じゃ、何かそこでまとめて投げるということが追いつくのかというと、ちょっと追いつかないと思うので。

○ 豊田政典委員長

一回、執行部の現時点の、現在の予算編成のその流れというのをきちんと押さえ直しますから、次回それを、1年の流れを一回つくってみて、そこへどう議会が絡んでいって話だと思うので。きょうの議論も含めて、ちょっと修正したものをつくってみます。

○ 中村久雄委員

執行部の流れというのは、今出ているやつでほとんど間違いないということですか。

○ 豊田政典委員長

間違いないと思います。

事務局で何月とかそんなのもわかりますか。

○ 西口議事課長補佐兼調査法制係長

済みません。ちょっと今のところ資料がありませんので。

○ 豊田政典委員長

知らんか。

スプリングレビューとかは……。

○ 山路議会事務局次長兼議事課長

スプリングレビューは4月、5月頃です。

○ 豊田政典委員長

スプリング、サマー、オータムまでやっているの。

○ 山路議会事務局次長兼議事課長

そこまで詳しくは今つかんでおりませんので、確実なものであれば調べて、また次回提供させていただきますが。

○ 豊田政典委員長

スプリングレビューはやってんのやね、今でもね、サマーレビューもね。

○ 山路議会事務局次長兼議事課長

スプリングレビューは4月、5月ぐらいにやっているというふうに聞いております。

○ 中村久雄委員

そういうところで、詳しいその流れも調べてもらってと思いますけれども。

別の内容で、決算審査と予算の連動なんですけれども、この提言シートというのは、やはり決算審査をする議会を出すというのがええのかなと思います。佐賀市議会が出した、附帯決議を毎回出すってありましたね。あれのちょっと軽い版みたいなところですね。ここはこういうことで、こんな意見をみんな持つておるから、ここはちょっと考えてくれよというところで。

政策サイクルですから、ぐるぐる回っておるんやね。だから、平成30年度の予算を平成29年3月に我々が認めました。平成30年度の予算を、ちゃうわ、これは2月やね、2月のことやね、あ、ちゃう、8月のことやね。8月の決算審査で平成29年度の事業に対する決算審査を行いました。その平成29年度の事業というのは、平成29年の2月に我々が予算案を認めたやつですわね。

その予算を認めた中でもいろんな意見があって、そこでこの8月を迎えたという決算で、

平成29年度の事業がはっきりそこでわかってきた。やはりあのときに、今年度の予算を認めただけでも、平成29年度、こんな具合やないかという部分が絶対あるやろうし、だから、予算と決算、どこが起点じゃなくして、ぐるぐるどこからでも始まるのかなということが絶対あるやろうなど。

だから、要は連動させ、予算と決算、決算と予算を連動させるという意識が議会後の今のシステムの中で、単年度予算で平成30年度の予算と決算、平成31年度の予算と決算と区切っている部分がどうしても大きいので、出てくるのかなと。

実際に、平成30年の8月に決算審査をして提言を出したやつが、役所の予算の立て方からして平成32年度しかなかなか反映できやんと言うんやけど、この提言書の中でも、もう明らかに平成29年度、こういうふうな問題が出てきて、やはり平成30年度の予算として認めただけで、平成30年度の決算をしたら、やはり平成29年度ではこういう問題があったやないかというようなところは、すぐさま平成31年度の予算には反映すべきというような提言が出たらええと思います。すぐさま、もう次年度はこういうふうを考えるべきというふうなところがね。

そうでなくして、まずそういうのもあるやろうし、8月の決算で平成29年度の事業はこうやったと、ここはこういうことが懸念されるから、今年度の予算執行をその辺は留意してしっかり押さえていくようにとか、我々もそこはちょっとウオッチして見ていって、こういうふうなことが考えられるということで、これは平成31年度の予算に対しての提言になるのかなと。

短期の課題と、1年の課題と半年後の課題と、1年間置いて、もう一年、平成30年度の予算の執行を見てもよというような課題の整理、提言の整理ができていたらええのかなというようなことを思いましたね。

わかりやすかった。わかりにくかったですか。

○ 豊田政典委員長

いや、わかりにくかったけど。

○ 中村久雄委員

わかりにくかった。

○ 豊田政典委員長

例えば。

○ 中村久雄委員

要は連動しておる予算が先や決算が先やではなしに、やはり予算と決算を連動させて、年度をまたいで我々の頭の中も考えていかなあかんということですね。

○ 豊田政典委員長

そうですね。例えば個別事業についての提言シートもあるかもしれないけど、もうちょっと大きな文化の発展みたいなやつがあったとしたら、これはどこから始まるわけではなくて、1年で終わる話じゃないし、続いていく話で、時々議論が予算に反映されていくように回していけばいいという話なんですよ。

個別の場合は、来年度の予算、やめておけみたいなやつやったら、即対応を考えてもらわなあかんし、いろんなパターンがあるけど。

あと、常に決算、予算を切れ目なく、またレビューも見ながら、そんなイメージですかね。

○ 土井数馬委員外議員

私もそういうイメージが湧いておるんですけども、だから、常に、基本的には、決算審査を予算に反映させるというのは、これはもう大基本ですわね。

だから、それをサイクル化していこうというのは非常にいい発想だと思うんですけど、腑に落ちやんのが、なぜ2年なのか、ここがやっぱりまだ一つ腑に落ちやんのですね。

それから、あれ、表では毎年、決算審査をするわけですね。詰めていって、平成31年度の予算の決算審査で予算審査もずっとやっていけば、1年でのサイクルでも何も問題ないんじゃないかなというふうに思っています。

さっきから出ているように、僕の求めるスピーディーな、あるいはレビューを参考にしていくのであれば、元へ戻ってしまうと怒るかわからんけれども、だから、2年目で年間白書で引き継ぐと、これは前回も出ていましたけれども、何か無駄なような気がしますですね。

それと、2年目の決算審査での提言は、同じ委員の方が言い残していった、新しい方は

それをもとにやっていくわけですね。その年間白書で練っていくのかわかりませんが、何かおもしろくないですね、それ。いやね、人が残していったやつをやるのって何かおもしろくないなって。

○ 豊田政典委員長

おもしろくないし、それこそ政友クラブさんの意見じゃないけど、今と変わらないんですよ。

委員長報告がシートに変わるだけで、それで、できていないじゃないですか、四日市市議会、引き継ぎなんて。

○ 土井数馬委員外議員

うん。それで、言い残すこともあると思うんですよ、決算審査で、1年やととても間に合わんと。それをまた次に回していけば、それもサイクルじゃないのかなと思うけど。サイクルっていろいろあるやないですか。

○ 豊田政典委員長

2年、1年の話ですけど、ここは前回、諸岡委員からもここで出されたんやったかな、これについて出されていますが、現行制度でも年間白書もあるし、委員長報告もある、委員長報告をまとめた年間白書がある、引き継ごうと思えば、これ、全部読み返して、あるいはビデオを見て、受けとめることはできるんですけど、やっていないと僕は思っています。これはね。それを2年任期の委員にすれば、同じメンバー、同じ意識で、ちょっと表はできましたが、例えば決算審査、予算審査のときにああいう意見、みんなで決めたり、まとめたり、議論したり。次の年に、これはどうなっているんだってなる。本当は4年がいいんですよ。4年はちょっと極端なので2年にしておけば、2年連続で同じ事業、同じ部局に対しての、同じ政策について同じ土俵で議論できるわけじゃないですか、分科会、委員会ね。やっぱりこれはかなり執行部にとっても力になると思うし、我々の意識も集中力が全然違うと思うのね。

だから、サイクルもさることながら、メンバー固定というのも、マイナス部分ももしかしたらあるかもしれないですけど、プラスのほうが大きいと思って、正副委員長ではこの提案をしている。

ここをちょっと乗り越えないと厳しいところなんですけど、理屈だけが難しいところもあります。ありますが、何とかここを踏み出したいなという正副委員長の思いですけど。もうちょっとここの議論をやった上で休憩しますので、1年、2年問題、委員の、ここをちょっとやりましょうか。

どうですか。

○ 土井数馬委員外議員

それと、前回でも聞いたんですけれども、高山市が二、三年前から2年任期にしたと、委員会を。ただ、メンバーは固定したけれども、委員長は固定しなかったと。これは、何があったのかな。

○ 豊田政典委員長

わかりますか、そのこと。

○ 栗田議会事務局主事

そういうふうな行政視察のときに質疑応答があったというふうに記憶してございまして、やはり最初は委員長の任期も2年で進めたいというふうなことで、当初は議論のほうをされておっただけなんですけれども、やはり役員改選というふうなこともございまして、反対の意見もあったというふうなところの中で、やっぱり最終的に1年に落ちついたというふうな形で説明があったかなというふうに記憶してございます。

○ 豊田政典委員長

ちょっと今のは本質的な理由はわかりませんが、土井議員。

○ 土井数馬委員外議員

やっぱりこれも根拠は別がないみたいなので。ただ、これは議長の2年制まで引きずると思うんですよ、これは。前も言うたけど、実力がない人やったらかえてもらったほうがいいなというふうに思うし、固定してしまうと、それはそれでできやんようになるのでね。その辺もやっぱり、じゃ、言いにくいことも言いますけれども、やっぱりその辺をクリアしておかへんと、あかんのやないかなと思いますけれどもね。

政策サイクルはいいです。ただ、2年のサイクル、やっぱりちょっと腑に落ちやんもんで。

○ 豊田政典委員長

任期のところにも深くかかわるので今言ってもらってもいいし、また、任期のところでも詳しくやりたいと思いますけど、今の話で言えば、前回も言われました、2年任期で始めた委員長やけど、1年やってみて、これはまずいんじゃないかってなったら、変えりゃいいんですよ。変えるというのはちょっとあれですけども……。

○ 諸岡 覚委員

ちょっといいですか。委員長の任期2年制とか議長の任期2年制というのは、サイクルの本質から見ると、ちょっと別枠なのかなと思うんですよ。

○ 豊田政典委員長

これ、ちょっと後やね。

○ 諸岡 覚委員

だから、それはもっと最後のほうの議論でええんかなと思うので、一旦それはちょっと議論から外して、あくまでもこのサイクル全体の話の議論に特化したほうが、話が進めやすいかなと思うんですが。

○ 豊田政典委員長

とりあえず委員長の任期は後回しにさせてください。

○ 土井数馬委員外議員

ただ、委員の2年化にしても、だから腑に落ちていないということですよ。そういうことです。

○ 豊田政典委員長

とりあえず預かっておきます。

1回休憩しますが、その前にシートのなやつ、こんなやつを出してみました、これ、ちょっと固めろ固めろって、何遍も言われておるもので、附帯決議はどこがやっておった、高山市議会かどこか。

○ 中村久雄委員

佐賀市議会。

○ 豊田政典委員長

佐賀市議会。もうちょっと易しいやつにしました。前にも言ったように、決議と言ったら、そんな連発するような軽いものじゃないよなと僕は思っていますから、この程度を決算常任委員会全体会で集約、議決か過半数かよくわかりませんが、ここで固めていくようなレベルでいいですかね、皆さん。

○ 太田紀子委員

前、カルテをつくる時、点数とか評価とか物すごく難しいというか、レベルの高い話があって、だからどうやって点数をつけるんや、どうするんや、こうするんやってもまれて、結局、そこで結論がなかなか出なかった、賛否も分かれているみたいな部分があったのを考えて、これを見て、逆に、これでもいいんだなと。

むやみに点数をつけるんじゃなくて、提言という形で問題提起していくというのも大事ななと思うもので、逆に、これだったら使いやすいし、あのときに、そのときの委員長と副委員長がどうこうなんていう話も出たときに、また全然違う意味で重い足かせみたいのができるのかなと思いましたけど、これなら使いやすいもので、いいものができているんじゃないかと私、個人的にですけど、そう思ったんですけど。

○ 豊田政典委員長

ありがとうございます。

これでさですよ、議員間討議が要るんです、もちろんね。みんなの、少なくとも分科会の意見なので。だから、その起爆剤にはなるはずなんです。

○ 太田紀子委員

これをとりあえず導入して、それからあともっともんで、もっといいカルテというか、そういうものをつくるということはできると思うんですね。だから、とりあえず一步、こういったものを活用するに当たって、使いやすいというか、みんなが討議しやすく、提言しやすいものというのを、まずは出すことが先決なんじゃないかな。やってみることが必要と思いますので。

○ 豊田政典委員長

はい。特に異論なければ。

○ 加納康樹委員

異論はないんですけど、きょう、ペーパーで配ってもらったこのシートのサンプル、附属の資料、これもちょっとアップロードしておいてもらって、私としては異論ないんですけど、アップロードしておいてもらって、会派に一応投げますので。

○ 豊田政典委員長

そうですね。

○ 加納康樹委員

ここで即答というのはちょっと困るので。次回、ですから、8月1日か。その日にはこれでいいですよという返答はしたいと思うんですが。

きょうはご提案いただいたというふうにとどめていただきたいと思います。

○ 豊田政典委員長

もんできていただいて、きょうの時点の意見は太田委員からいただいたと。

○ 伊藤嗣也委員

そうすると、例えばですけれども、分科会で附帯決議を付しますかとか、提言シートを付しますかとかも、そういうのを聞くわけですか、考え方として。

○ 豊田政典委員長

そうですね。

附帯決議はもうちょっと重いんじゃないかな。

○ 諸岡 覚委員

附帯決議より軽いわけですか。

○ 豊田政典委員長

軽いというか、決議というのはよっぽどじゃないと出やへんのとちゃうの、本当は。

○ 伊藤嗣也委員

附帯決議というのは、何にのっとして、どこに書いてあるのか、もう一度、できたらちよつと。

○ 豊田政典委員長

法的な見解ですか。

○ 伊藤嗣也委員

はい。そのこれとの違いをちょっと知りたいなと思って。

○ 豊田政典委員長

はい、事務局。ちょっと今、調べていますので、休憩にしましょうか。

それじゃ、40分再開でお願いします。

14 : 30 休憩

14 : 41 再開

○ 豊田政典委員長

それでは、再開いたします。

休憩前に伊藤委員から言われた附帯決議の法的根拠にある定めはどうだということで、

休憩中、調べていただきましたが、附帯決議というものが法的に、あるいは会議規則に定めはありません。ないということがわかった。

四日市市議会と言えば、会議規則にも書いていないけれども、唯一定めがあるのは、議会基本条例、四日市市議会の場合は。ここに書いてあるのは、執行部に対する尊重義務と対応報告義務、これが規定されているだけで、地方自治法にも会議規則にも附帯決議というものが書いてあるわけじゃない。

ただ、解釈本によると、議会の意思を表明しておくものであるという意味として、だから、決議というものはここにあるんですけど、この中の一種で、予算なら予算に対しての議会の意思表示であります。各議会において明確化しておいたほうがいいですよって書いてあるけど、四日市市議会の場合は、そこまでは行っていないけど、そんなことですね。決議の中の一種だと思います。

○ 伊藤嗣也委員

ありがとうございました。ただ、そうなってくると、この提言シートのほうは予算に反映させていくとなると、こっちも結構重たいといいますか……。

○ 豊田政典委員長

重たいですね。

○ 伊藤嗣也委員

こっちのほう为重たくならへんのかなという気がしました。

以上です。

○ 豊田政典委員長

これは、きょう示させていただいたサンプルシートみたいなやつ、シートのサンプルをまた会派に持ち帰っていただいて、こんなことが正副委員長案として提案があったけどということで、また会派、団体の意見を聞いてきてください。

土井議員から出された、それから前回、諸岡委員も出されましたが、このサイクルはよいとしても、委員任期が1年なのか2年なのかというところは、これをもって2年というのは、まだ腹に完全には落ちていないというところはちょっと保留、預からせていただい

て、また次回も引き続き行いますが、今からは、二つ目のサイクル、最初の資料で言うと、下のサイクルを議論していただいて、また意見をいただいて、これとあわせて2年任期についても考えていきたいなど、そんな進行をさせてもらいたいと思います。

もう一回、これね。これを改めて見ていただくと、正副委員長の元の案は、1年、2年、2年同じメンバーでやりますが、一番最初に、レベル的には総合計画の基本的政策をベースに設定というふうに置いてみました。

ほかの議会では、シティ・ミーティングみたいな市民意見をもとにというのはありますが、これやとなかなか難しいかなという。難しいというところは説明せいと言ったら説明しますが、これは難しいと。

これは、ここから選択するわけです、各常任委員会が。通年、あるいは2年のテーマを決めて、課題を設定する。それを所管事務調査や行政視察、管内視察、それぞれにこのテーマに関する視察や調査を行って深めていく。

あわせて、シティ・ミーティングや市議会モニターからの意見、あるいはいろんな団体等の意見交換で市民意見を吸い上げながら、これを深掘りして行って、委員会の中で、最後に提言、あるいは、もしかしたら条例案になるかもしれない、そういう立案をしていく。ここまでが常任委員会の世界です。

これを水色の部分で、年度の最後にやりますが、今、4常任委員会報告会というのをやっている、ここに上げるわけです、各4常任委員会が。これを、例えば政策討論会という名前にかえて提案する、全員に。提案して議論した上で、承認というか、意見集約できたものを、この黄色の部分、執行部に対して1年、2年の成果として提言にまとめ、あるいは条例案の発議にかえて、執行部に投げるということを考えてみました。

前回、この提案をした中で、この委員会で――これ、土井議員からですけれども――一つのテーマについて2年間議論していくよりも、毎年テーマ設定を行ってもいいんじゃないかという意見もいただいて、あその後、正副委員長と事務局とで話したのは、2年で1本というふうに置いていましたけど、必ずしもそこまでこだわる必要はないんじゃないかと。

例えば議会では、環境政策をより進めようみたいな、このぐらいのでかいやつは、もしかしたら2年かかるかもしれないし、1年半ぐらいかかるかもしれん。こういうもの、こういうパターンもあるけど、もう少し中規模のテーマ、CO2の削減を目指そうみたいな、少し中ぐらいのやつは、もしかしたら半年で終わるかもしれない。1年で終わるかもしれ

ない。あるいは、もっと、もう少し小さいやつだと、半年ぐらいで終わるかもしれない。

2年の中で1本ずつとやれるやつもあれば、あるいは1年で2本やるパターンもあると。その辺は柔軟に考えてもいいんじゃないかということ、あの委員会の後で話をしていました。

それから、テーマ設定をして視察する視察についても、いろんなやり方も考えられるだろうと。例えば8人いる常任委員会全員で今は行っていますけれども、これも班別に分かれて2カ所、3カ所に行って、委員会の中で報告をして共有していくとか、そういう視察のやり方によっていいんじゃないかとかという話をしています。

ちなみに、一番最初の総合計画の基本的政策というところも、少し正副委員長の中では変わってきたんですけど、これ、どの程度のレベルなのかというのをちょっと見てもらいたいので、四日市市役所のホームページを出してください。

その間に、副委員長から補足があれば。

○ 中川雅晶副委員長

いやいやもう完璧な説明でありますから。

先ほど言われたように、この2年でやるというところが、管内視察であったりとか行政視察であったりとかというのが、精度が上がってくるというか、何のための管内視察なのか、何のための行政視察なのかというのが、もう少し深まるかなというところはあるのかなって思います。

○ 豊田政典委員長

こっちのサイクルのほうは、既に北勢5市の中でもやっているところもあるんです。一つの通年テーマを決めて、それに応じた視察をやったり、市民との意見交換をやる、まさにそれをいいとこ取りしてきているんですけど。

だから、今の、来週視察に行かれる常任委員会もありますけど、別に7月に行かなくてもいいわけですよ。今のやつやと、まず日程ありきで決めていますよね。それで、常任委員会が始まったばかりで何もやっていないのに、テーマを募集してって、それ、ちょっと違うなって思いがあってね。ある程度議論して、必要なときに必要なところに行く。そんなことを言っておいたら、日程とれへんやないかとかという話もあるんですけど、それこそ2人派遣する、中村委員と中川委員というふうに。俺たちは違うところに行くぞ

とってやってもいいんじゃないかな。より機動的に、有効になっていくのではないかと。

(発言する者あり)

○ 豊田政典委員長

もう一つ下、基本目標が今の総合計画では5本あって、1本目の基本目標、都市と環境が調和するまち、基本目標1の中に、三つの基本的何かがあると。その下にまたあるわけです。この下に個別事業がぶら下がっているというところで、最初、正副委員長の素案は、ここでどうなっているという話だったんですよ、提案はね。

ちょっと読んでみると、都市と環境が調和するまちという5本の、5分の1の既成市街地や既存集落の有効活用とか、農地・森林の保全、かなり広いです。かなり広い。これで設定してもらったら結構時間がかかるというか、長いバージョンかなと思います。

もうちょっと小さくてもいいんじゃないか、農地・森林の保全の中の公園、自然を生かした公園の整備、ここをちょっと今回やってみようとなったら、もしかしたら半年か何カ月かで終わるかもしれない。こっちの設定でもいいのかなと。

今やっているのは、私のイメージですけど、この下の個別事業を所管事務調査でやるパターンが多いと思うんですけど、もう少し広げるけれども、ここまで行ってもいいし、このレベルでもいいので、こういったレベルの課題設定というところの、テーマ設定ですね、こういうテーマを設定して、視察やシティ・ミーティングやその他で深めていって、最終的に提言にまとめていく、そんなサイクルでございます。

だから、土井議員が言われたように、2年で1本にこだわらなくてももっと柔軟でもいいんじゃないかと思いましたが、正副委員長の考えはちょっと修正させていただくということですが、この二つ目のサイクルについて、皆さん、また会派、団体の意見を聞かせてほしいなというところなんです。

どうでしょう。

○ 伊藤嗣也委員

所管事務調査を一つのテーマで1年間やるなら話はまたちょっと別やと思うんですけど、現状は、例えばこの議会のときでも、複数の委員から手が――教育民生常任委員会ですけれど――挙がったわけですね。その中から一つのやつを選んで、また、8月定例会議会はま

た別のテーマになるという。ですから、そこら辺の現実的な問題がありますので、なかなか1本で1年間というような捉え方は難しいのかなという気がしています。

○ 豊田政典委員長

つまり、やりたいテーマが複数出てくる現状があると。それを1本に絞り込むと、あとのを切らなアカんで、そういう課題があるんじゃないかという話ですね。

○ 伊藤嗣也委員

はい。

○ 豊田政典委員長

これ、副委員長、どうですか。

○ 中川雅晶副委員長

確かにそういう課題もありますし、それは所管事務調査をどういうテーマで、いろいろそのタイムリーなこともありますし、本当に小さい事業のこともありますし、今はもう少し大きいところの政策課題というのをテーマにしたらどうやというところでもいいし、それに応じてやっぱり時間の使い方が違うと思うので、その単発的なものだったりとかタイムリーなものであったりとか、そういうようなものもこなしていかなきゃいけないのかなと思いますので。

数をこなすという部分もあるし、少しこの常任委員会では、総合計画のこのテーマを少し掘り下げましょうかというところもあるのかなって思うので、それは両方あってもいいんじゃないかなって思うんですけどね。

○ 土井数馬委員外議員

さっき正副委員長から提案のあった、視察を分けていくのもいいんじゃないかというのであれば、ばっちり合うんじゃないかなと思いますけれども。

個々にテーマを研究してもらって、また委員会で発表してもらって、どうやって取り組んでいるかとかを委員間で討議するのも一つの活性化じゃないかなと思いますけどね。

視察の案はいいなと思いましたけどね。ばっちりやなと思いました。

○ 中川雅晶副委員長

これ、三重県議会が特別委員会の中で視察をするときに、委員を分けて視察をされていたんですよ。いや、これはおもしろいなと思って、それぞれ視察を行ったところをまた委員会で集まってきて、それぞれの報告をしてというところで仕上げていましたので、ぜひそういうような手法は本市議会でも活用していけば有効かなと思いましたね。

○ 諸岡 党委員

この流れは私、いいと思うんですよ、今映してもらっている。ただ、私は、例えば2人で担当して視察に行って、その報告書みたいなことを書くと、例えば私と加納さんがたまたま同じ方面に興味があって、同じように似た考え方があって、それについて視察に2人で行きましたと。私たちは意見が合うし、方向性も合うから、それに沿った報告書を書くんですよ。

でも、たった2人の議員の意見が報告書として成立をしてしまうというのは、それはそれで一つの怖さがあって、反対の意見が合わん人の感覚から言うと、それってむちゃくちゃ偏った報告書やんかというのも当然出てくる可能性があると思うんです。

だから、まだ県議会の場合、人数がいて、少なくとも3人、4人みたいな、そういう班で行くのならまだ、4人ぐらいおれば私はありかなと思うんだけど、例えばこの四日市市議会のせいぜい8人ぐらいの常任委員会の中で、3班に分けて2人で行きましたみたいなことになると、報告書の精度がかなり偏ったものになる心配があるんじゃないのかなと思うんですけど、いかがですかね。

○ 中川雅晶副委員長

とりあえず3班に分けるんじゃなくて2班でもいいわけですよ。2班であれば、4人、3人の……。

○ 諸岡 党委員

四、五人そろっておればそれでええんですが。

○ 中川雅晶副委員長

しかも、それを全て結論めいたものを報告するという意味ではないですよ、視察って。視察に行って全て完結できるような報告をつくれるかっていったら、そうではなくて、行ったけれども、いや、こういう課題が多かったねというのがありますし、いや、これはなかなか難しいよねという結論もあったりとか、両論あったりとかする場合がありますので、それを含めて報告をして、視察へ行ったから全てそれで完結して、そのメンバーに全てを任せるというわけではなくて、視察をしていろいろなものを検証してきた結果をここで報告をして、そこでまた市議会としてどうするかということを検討していかなきゃいけないですよ。

先進事例をそのまま持ち込んでも、なかなか難しいという事例は多分にあるわけですよ。それを四日市市にどうやって合わせていくか、現状にどうやってして合わせていくかというのも常任委員会の中で議論していくというのが視察の意味合いかなと私は思うんですけど。

○ 諸岡 覚委員

この画面に映っている、この流れ、フレーム、これを議論するときには視察の回数って論じる必要ってありますか、そもそも。私、そこはもう議論せんでもいいような気がするんですけれども。

ちょっと細かく入り過ぎておる感があると思うんですよ。

○ 豊田政典委員長

だから、そこまで別に決めているわけじゃないんですけど、サイクルの中での視察の活用の一例と思ってください。だから、視察もサイクルの一環として、非常に有効活用するという意味合い、その程度に考えてもらえばいいと思う。

○ 諸岡 覚委員

フレームとしてこの流れは、私はいいと思います。党派でもこれはもんで、いいんじゃないかという方向で来ていますので。

ただ、今の一つの話もそうだけれども、細かい部分については、あくまでもその常任委員会でのその当年度に決めていくという前提であって。ここでそんな細かいことまではもう議論しないという方向性で進めてもらいたいなと私は思います。

○ 豊田政典委員長

議論はしますけど、よりわかりやすくイメージしてもらうために、こういうやり方もあると。こうしなさいとか、こうすべきであるというところまではやめましょう。ただ、イメージしてもらうために、サイクルをイメージしてもらうために、こういう視察のあり方、シティ・ミーティングのあり方というのはあってもいいんじゃないかなと。

もちろん言われるように、大枠がここで提案できるまでに至ったら、あとはもうその常任委員会のやり方次第ですよ、どんなやり方をしてもね、とは思いますが。それはそれでいいと思います。

○ 諸岡 覚委員

はい。

○ 豊田政典委員長

どうですか。

○ 加納康樹委員

これもまた諸岡さんところと一緒にですけど、特段、これに対しての異論というのはありませんでしたので、これでいいんですが、ただ、冒頭で委員長で大幅修正のご発言、ご提示があったので、申しわけないんですけど、それも何とか頑張って図式にしてもらってアップロードしていただいて、それでまた会派で説明していきたいと思いますので、よろしくお願いをしたいと思っております。

あと、余談事になるんですが、視察云々のところでいくと、豊田議長のとくに横っちょに座っての視察対応をさせていただいたときに、おもしろい行程を組んでいたところがあって、何かというと、2班に分かれて1泊目行動しています、2泊目行動しています。四日市で集合して合流するという、そういう行程を組んでいる議会がございました。A行程、B行程、四日市集合という。

○ 諸岡 覚委員

それ、委員会ですか、会派ですか。

○ 加納康樹委員

特別委員会だったかな。

○ 豊田政典委員長

特別委員会やったな、あれ。

○ 加納康樹委員

はい。でも、そうすると、その場でどうまとまるか知らないけど、ホットなうちで多分合流できるんだろうなというのは思いました。余談までに。

○ 豊田政典委員長

はい。一つ目のテーマの正副委員長の考えの修正、2年で1本というやつをもう少し柔軟にというやつと、それから一番最初の雲のマークところの、もう少し細かくてもでかくてもいいって、さっきのホームページを使いながら資料にしますので、もう一回、済みませんが、ちょっと変わってきたのでってなことで、会派でまたもんでいただければと思います。

あとは、きょうのところはいいですか。

(なし)

○ 豊田政典委員長

この二つ目のサイクルについては、ほぼほぼまあまあですか。

○ 諸岡 覚委員

まあまあですね。

○ 豊田政典委員長

まあまあね。きょうのところはこんなところで、これ、また持ち帰っていただいて、さらに議論してもらえばいいんですけど、どうでしょう。午後3時半まで任期の話をして

いいですか。

じゃ、午後3時半までやりましょうか。

そうしたら、さっきも出ていました委員任期やら議長任期もあるんですけど、どうしような、今のサイクルも頭に置きながら、どっちに行こう、ちょっと……。

○ 加納康樹委員

ごっちゃでいいですよ。

○ 豊田政典委員長

ごっちゃですけど、ちょっと気分も変えながら、簡単なものをつくったので、あれ、映せやんの、あれ。委員も含めて、委員長も含めて。

○ 栗田議会事務局主事

ちょっと配らせていただきます。

○ 豊田政典委員長

はい。それじゃ、資料ですけど、単純に整理したものを、まずつくってもらいました。

これは正副議長と4常任委員会正副委員長、パターンとして考えられるというだけの話なんですけど。下の正副委員長については、パターン1、パターン2は、当然、委員は2年という前提です、委員はね。どうしような。今、どうしようなど思っているのは、さっきの続きをやるか、常任委員会の委員の任期を皆さんで議論してもらおうか、あるいはちょっと方向性を変えて正副議長の話をするか、どっちにしようかなと思っているんですけど。

○ 諸岡 覚委員

両方まぜてでいいんじゃないですか。

○ 豊田政典委員長

まぜてでもいい。議長経験が長い方が本日はないので、次でもいいんですけど。

じゃ、もう一個のやつ映してみても、さっき開こうとしておったやつ。

前回、これも中森委員から出された、議長任期を考える場合にはサイクルもさることな

がら、ほかの視点から課題を整理したほうがええんじゃないかということで、僕なりに視察中の新幹線の中で書いたんですけど、単純な話です、議長任期を考えるには、政策サイクルのアプローチも大事だけれども、他の観点からの議論も必要じゃないかな。

3年、4年はちょっと置いておいて、1年か2年をどう考えるか。第一、市民にとってどうだろうかとか、それから、ほかの市議会や議長会。

それから3番目、議長提案改革、事業の遂行、経験と計画性というのは、よく言われることで、私もそうでしたが、1年目、初めてのことが多いので経験がない、その中でどこまで計画的にやりたいことができるかというのが1年だと難しいんじゃないかって話です。

4番目は、きょう、今まで話してもらったような政策サイクルで、常任委員がもし2年になったらどうするんだって話。それとの関連性も関係あるだろう。

5番目は、議長選出の影響というのは、これはうまく言えないんですけど、例えば選び方も変わってくるかもしれないと、意識が。さっきの常任委員長の話もそうなんですけど、もし2年の委員長ってなると、土井議員の話じゃないですけど、これからぶっちゃけ言っていきますけど、今、役員選考委員会で常任委員長って何となく2期目の人が常任委員長で、1期目の人が副委員長になっていますよね。その選び方で、これからはいいんだろうかという思いが個人的にはあります。

だから、2年になったらとか、サイクルができた場合に、わかりやすく言えば、期数の上の委員を押さえるというか、意見集約をしていく力量が要るわけですよ。それが期数が2期だから委員長という選び方でいいんだろうかという。2期でもいいんです、1期でもいいんですけど、選び方自体も変わってくるんじゃないかという思いがあって、そんな議論もこれからしていきたいなというところです。ここも考えながら議長任期は考えたほうがいいんじゃないか。上にちょっと整理したものを出してみました。

ということで、30分までフリートークみたいな感じで、委員、正副委員長、正副議長、これについて会派、団体の意見やら、個人的な思いでも結構ですし、疑問でもいいので、20分間やらせてください。

○ 諸岡 党委員

私、自分自身の経験を踏まえて話をさせていただくと、1期のころに副委員長をさせてもらって、2期目、3期目のころにかなりの回数、委員長をさせていただきましたので、

それはすごく自分にとっていい経験だったと思うんですよ。

委員長任期を2年にすると、委員長をやった人は2年連続で委員長ができるからいい経験になるんだろうけれども、委員長に当たらない人というのも当然出てくるわけなんですよ。

○ 豊田政典委員長

同じ期数でね。

○ 諸岡 覚委員

同じ期数でも。そうすると、当たらなかった人というのは、なかなか、言い方は失礼かもわからないけれども、成長する機会を失ってしまうことになるのかなと思うんですよ。役職が人をつくるというのは、私、確かにあると思っていて、その役職を拝命して、1年間それをしっかり務めることによって、一つ議員としてステップアップしていくという部分で非常に大きいと私は思うんです。

そう考えたときに、議長の2年制というのは、これはあっていいと思うんですが、副議長とか委員長、副委員長というのは、今までどおり1年交代のほうがより満遍なく全ての議員が成長する機会が得られるのかなと。そのことによって、議会全体のベースアップができていくんじゃないのかなというふうな気はしますね、私は。

○ 豊田政典委員長

最後うまくまとめましたけど、今の意見についてどうですか。

○ 土井数馬委員外議員

大筋そのほうがいいと思うんですけども、議長の2年制というのは、何で、今も申し合わせですわね。本来なら4年なのが、申し合わせでやめていくんですが、四日市市議会。ほかの市区議会のをこの間聞いたけれども、2年制をとっておるところでもやっぱり根拠はないわけで、申し合わせでいっているわけなんですかね。

それで、今回、豊田委員長が手を挙げましたわね。数回、いやいや、すごいなと思ったし、だから、本来、議長2年制というのも、やっぱりもう一回手を挙げるべきですよ。次の年の所信を述べて、それで選ばれていくのであれば何ら問題ないと思います。それが3

年続けようが、4年続こうがね。そういうふうな方向に変わっていくんじゃないかと思うんですけども、大きくこの議会が変わった年がありましたわね。何か今まで話し合いで決めておったのが選挙になったと。だから、誰でも出られるようになったと。

ということは、やっぱりそうした、委員長のことは置いておきますけど、議長にしましても、これ、2年って固定せずに、やっぱり実力ある人はもう一遍手を挙げてもらえば、それで選んでもらえばいいんじゃないかなというふうな方向のほうが僕はいいんじゃないかと、これは意見ですけどもね。

○ 豊田政典委員長

制度的には、2年とか3年と決めずに今でも可能なので、やろうと思えば2年できますから、今のままでええんじゃないかという話ですか。

○ 土井数馬委員外議員

そうですね。だから、今はそんなの行儀が悪いって言われるもので、2回手を挙げると、いいんじゃないかなって思いますけれども、そう言われていましたわ。

○ 豊田政典委員長

そうですか。

○ 土井数馬委員外議員

だから、今までの慣例でいくと、やっぱり、おい、遠慮しとけよみたいなことですがけれども、あれはあれで僕は正々堂々と手を挙げてもらって、また所信を述べてもらえば……。

○ 豊田政典委員長

褒められているのか、けなされているのかわからんな。

○ 土井数馬委員外議員

いやいや、褒めておるの。いや、こういう方法もあるんやなど、あのとき、まだこの議長2年制の話が出る前に、ああ、こういうのもあるなと僕、思っていたもんでね。

きょう、議長が新幹線の中かどこか知らんけど、書いてくれたやつで、やっぱり僕も全

国市議会議長会なんかは、やっぱり2年やらないと向こうの役員にもなれないし、あのときは一遍思いましたけれどもね。

でも、ただそういうやり方の2年連続の議長やったらいけるんじゃないかな。その辺はまた調べてもらわないかんですけれども。でも、ほかの地区の場合も、何遍も言いますけれども、申し合わせとか別に何か根拠なく2年制をとっておるだけで、全国市議会議長会が、別に議長2年制のところだから役員に選ぶというふうなことはないんじゃないかなと思いますけれども。ちょっとわからんで想像でしゃべっておるけれども。

もう一つ忘れていた。25分に帰らせてください。それ、言い忘れていた。

○ 豊田政典委員長

もうちょっとだけ、また議論してもらうために、対市民というのは、全国市議会議長というのは、31万市民の代表たる議会の代表なので、市長と並び立つものだと思っているんです。

ところが、去年の議長は誰がやってって多分誰もあんまり知らないと思うんですよ。森市長は割と知られている。これも1年交代だという悪影響の一つかなと思うし、簡単に言えばそういうことやね。ほかにもあるでしょうけど、市民に対してね。毎年変わるんやろう、順番やろうみたいなね。

2番目、全国市議会議長会は、一つのわかりやすい例は、僕の記憶で何年前に、全国市議会議長会の会長市の順番が東海へ回ってきたときがあったけど、1年ではできなかったんです。そんなこともあります。それから、もっと言えば、その議長会を何か改革しようなんて、僕、偉そうに言っていましたけど、これも竹野議長に引き継げればいいんですけど、なかなか引き継ぎって難しいところがありますから、対議長会というのもある。

それから、他市議会にとっても同じですよ、対市民と同じように。ことしまた変わったんかいと言われたことがあるんですよ。三重郡の町議会の議長、四日市市議会、また変わったんかって、それ、いい加減に2年にしたらどうやって。18年やっている人がおるって、それは別にして、そういうやつ。

3番目は、さっき言ったように、1年なんてすぐたつというか、初めてのことばかりやってくるので、なかなか計画的にやろうと思っても難しいところがありますわね。2年、もう一回ぐらいできれば、ここも変えたい、ここも変えたいと多分出てきたと思うんですよ。それがなかなか1年では難しいなど。

4番目は、さっきの、まさにここでの議論との関係。

5番目は、さっき言ったように、選び方も変わってくるかもしれないというところで、あと、15分です。

どなたでも。現時点での意見で。

○ 加納康樹委員

まず、個人的な意見の前に、会派としてこの辺に関連して出ていたところだけお伝えをさせていただきます。

まず、委員として2年という縛りをするのが本当に必要なのかという、こんな意見がありました。2年でサイクルを考えるのはいいんだけど、別に委員会として2年サイクルで回ればいいだけであって、中で委員は別になっても、2年サイクルというそれが目的であるならば、委員が必ずしも固定である必要は本当にあるんだろうかという、こういう疑問を呈する者がおりました。

余談までですが、全く逆の意見もありまして、いや、ずっと同じ委員会にいる人を、逆にそれをやめさせるという方法はないですかという、そんな発言もあつたりもしましたが、これは会派の総意としてはお伝えしません。余談事として言っておきます。

それと、もう一つ、ちょうどこの今、委員長のメモがありますけど、これに対してこの委員会として一番最初に出してもらったようなまとめをしてもらえばありがたいんですが、1年なのか2年なのかということに対して委員会、それが委員会であろうが、議長任期であろうが、委員長任期であろうがいいんですけど、1年、そして2年、それぞれのメリット、デメリットというのをちょっと列挙して見比べる必要があるんじゃないかということがありました。

どっちもどっちでいい点もあれば悪い点もあるんだけど、それをやっぱり可視的に見てトータルで判断しないと難しいんじゃないかというふうな意見もありました。

この辺が、会派としていろいろあつたところであります。

あと、これは今、話を聞いていて思った点ですが、委員長からこの提案のときにあつた、委員長を2年で選ぶ云々というのが本当に適切なのか、じゃ、2期の人で選ぶのは本当にいいのかという、その辺の話ですけど、それはでも、諸岡さんが言ったように、いろいろ満遍なく当たるといふことのメリットも大きいんだろうなと思っています。

もし、これで2年サイクルでやろうよということが、委員会、そして議会全体で決める

ことができれば、思い出してほしいんですけど、ちょうど、だから私が3期に上がるところで何があったのかというと、あのときに議会報告会とかをスタートしなきゃいけないというのがあったので、一発目だけは回避的に3期、本来ならば2期の人に委員長をやってもらうところだけど、一発目だけは3期の人で、委員長を3期以上で張ろうという、そういうことで回避したというのがあったので、まあそんなのでも逃げれるのかなということは、今の委員長の話を聞きながら思っていました。

以上です。

○ 豊田政典委員長

はい。二つ目ぐらいのメリット、デメリットを見渡そうという話なんですけど、これ、資料をつくろうと思えばつくれるんですけど、極めて主観的になっちゃうんですよ、正副委員長のね。それでよければつくりますが、それこそみんなで出し合ったほうがいいのかなって。たたき台をつくれというならつくりませんが、その辺はどうですかね。

○ 加納康樹委員

こういう丸があるよとか、バツがあるよという形で。

○ 豊田政典委員長

じゃ、たたき台的に整理しますか、こっちで。これは違うとかそうだとか。

○ 加納康樹委員

そうそう、今も丸とかバツとか、いろんな意見が出ていますから。

○ 豊田政典委員長

うん。そんなのでよければ。

○ 伊藤嗣也委員

たたき台はあったほうが……。

○ 豊田政典委員長

じゃ、つくりますわ。

ほか、どうですか。

○ 中村久雄委員

議長とか委員長とか、今の現状は、会派間のやっぱり役職取りというのがありますやんか。そういう部分をどう考えていくのかというのが、だから、それでいったら、今と全然変わらない。今はそれが弊害みたいな、ある意味弊害でもあるわけですね。

だから、そこをどうやっていくのか。それで、僕が思っていたのが、常任委員を2年にすると。そこで委員長は、委員の中で、委員で委員長を選んだらええんかなと。

○ 豊田政典委員長

互選ですよ、まさに。

○ 中村久雄委員

うん。それが1年でも2年でも、2年目になってから変わっても、別に同じメンバーの中で変わってもいいのかなというようなこともちょっと思いましたね。

それで、議長の対市民のというところで、委員長は、市民から見て1年で変わるのかというのと、対市民の皆さんが地元のとか議員さんに3期目、4期目になってから、おまえ、議長まだかと何かそういうものもありますしね。

○ 豊田政典委員長

それもありますね。

○ 中村久雄委員

議長はやっぱり名誉職という部分があるし、その辺もちょっと考えていかないかんわな。それはメリットというたら1年のメリットはメリットやわね、いろいろたくさんいたほうがということをお我々も考えました。

○ 豊田政典委員長

なるほど。そういうのもメリットに書かなあかんね。

○ 土井数馬委員外議員

今の中村さんの意見に僕、賛成なんですけれども。だから、役員選考委員会自体を大きく変えなきゃだめだと思いますね。今言いましたように、今の役員選考委員会では、いろんなあれがありますけれども、一旦その何々常任委員会の委員が集まって、やはり今もやっていますけど、互選で決めるというか、もう事前に決まっているもので、あれこそ本当に互選で常任委員会を開いて、そこで決めていくというような形になっていくんじゃないかな。それなら別に、次回からよくありますけど、任期は1年とし、再任は妨げないというのがよくあるやないですか、そういうような考え方になっていくんじゃないかと思うんですけれどもね。

だから、なりたい人はやっぱり手を挙げればいいし。委員会でもね。みんなが賛成したらそれでいい、2人おったら選挙してもいいし。議長においても、やっぱり同じようなことだと思いますけれども。だから、日程を2日ぐらいとらなあかんかわからんですね、役員選考委員会の。慌ててあれするんじゃないしにね。

これ、意見ですよ。

○ 豊田政典委員長

変更について、これも影響してくるので、僕の話もちよっと言わせてほしいんですけど、これもまた議論の材料にしてほしいんですが、これ、役員選考を、議長選挙も今5月にやっていますけど、僕は3月にやったほうがいいんじゃないかと思っているんです、いろんな意味で、4月以降のやつをね。

4月スタート、行政は。例えば細かい話ですけど、正副議長のところに新部長が挨拶に来ますよね、大名行列です。言わんけど、もう変わっちゃうんですよね、5月に。そしてまた大名行列ができる。だから、議会は何か1カ月半おくれで新年度が始まりますやんか。これ、無駄なような気がして。次年度4月1日からの体制は3月か4月の頭に決めちゃって、できれば4月1日にどーんとスタートする、こんな役員選考の時期についても、できればまた議論をしてくださいというのと。

もう一個は、これ、ちょっと極論かもわからんですけど、いろんな常任委員長のあり方なんていうのを考えていったときに、今のやり方についての意見を言ってもらいました。極論かわからんけど、正副議長で決めて正副議長が指名する、常任委員を、常任委員長を、

これ、どうかなというのも多分反発を食らうんですけど、議論の材料にしてもらえばありがたいな、会派でね。

ほか。あと6分ぐらいありますので。

公明党さん、常任委員2年制を言われていると思うんですけど。

○ 中川雅晶副委員長

それを議論していたんですけど、委員会の2年先から連続性であったりとか継続性をどう担保するかというところで、委員の2年制って言いましたけど、本来は、例えば継続性を担保しようと思えば、委員を半分交代するとか、3分の1交代するとかというのでもいいと思うけど、それはなかなか機能的に難しいので、委員の任期を2年とするとしたほうが継続性が担保できるというところで、公明党の中でも議論をしました。

さっき言われた、委員長においては、あくまでも委員長は互選なので、それは役員選考委員会で決められた委員長がそのまま継続というのではなくて、例えば1年たった時点で互選で交代するというのも、互選ということが明記されているので、それも担保されているのではないかなという議論があったのと同時に、役員選考委員会が実質的には委員長を決定しているので、その役員選考委員会との関係性がどうなのかという意見もありました。

○ 豊田政典委員長

関係性ということ。

○ 中川雅晶副委員長

関係性って、逆に、役員選考委員会で委員長、副委員長を決めておるので、それは常任委員会での互選なので別に互選することはできるんですけど、ただ、じゃ、それは何でもそういう互選でいいのかという意見も一つありました。何でもかんでも互選でいいのか、いや、じゃ、逆に役員選考委員会は何のためにあるんやという意見もあったということですね。

○ 豊田政典委員長

ああ。両論あったと。

○ 中川雅晶副委員長

両論あったということです。

あと、何を言っていたかな。

○ 豊田政典委員長

委員の継続性云々のところ、もう少し響いていないので、まだ。

○ 中川雅晶副委員長

響いていない。

○ 豊田政典委員長

うん。詳しく言うてください。

○ 中川雅晶副委員長

そうですね。委員会を継続させようと思えば、委員を、例えば半分残して、半分入れかえるというやり方もあるし、今回の正副委員長の提案のように、委員を固定して2年としてというのもあるし、委員長、副委員長を2年として、委員はある程度ランダムに変わっていくというやり方も、継続性を担保する手法としては3パターンぐらいあるのかなということです。

その中においても、一番、委員会条例であったりとか、今後運営する上においては、委員の任期を2年とするということが一番やりやすいのかなというところで、この間、私どもの会派の中では、一応そういうような意見があったということです。

わかりますか。

○ 豊田政典委員長

はい。継続性をより強化するためにいろんなパターンがあるけどという話ですね。

○ 諸岡 党委員

例えば役員選考委員会で、今、委員長、副委員長の大体たたき台というか、原案をつく

って、最終的に、それが互選で選ばれる形になるわけですね、その原案どおりで。

例えばもうそういうのはなくして、本当に互選にしましょうということになると、どうなるかと言えば、間違いなく水面下に、いわゆる役員選考委員会が水面下に潜るだけの話で、会派の代表者クラスが、極論を言えば、この委員会ではあんだのところから委員長を、うちは賛成するでって、こっちの委員会ではうちの委員長にそっちでは手を挙げてって、それ水面下になるに決まっているんですよ、絶対に。

それで、恐らく過去からの経緯で言うと、そんなことをやめて、もう平場で話し合いしましょうよということで、この役員選考委員会になっておるとちやうんかなと思うんですよ、恐らく長い歴史の中で。

そうでないと、絶対、水面下に潜るだけで、ますます見えやんようになってくるんちゃうかなという気はしますね。

○ 豊田政典委員長

そうかもね。

○ 諸岡 覚委員

絶対そうなると思いますよ。

○ 豊田政典委員長

うん。まあ、そうかもね。

○ 伊藤嗣也委員

どの常任委員会っていうか、例えば議員になって、自分の行きたい常任委員会に行くという権利も大事かなと、基本的にね。そこで2年行きたかったら2年、また自分行きたいって会派の中で言えばいいと思いますので、やっぱりその辺の自由度は、僕はあったほうがええのかなと。というのは、1期生のときに1個ずつ四つの常任委員会を回るという委員の方もおられると思いますので。

これは意見として。

○ 豊田政典委員長

今の意見が結構重要なところやと思うんですけど、現行でもできるじゃないか、議長も、委員も、何でも、というのは確かにわかるし、各議員の権利というか、自由さなんですけど、やっぱりこの特別委員会の目的が、やっぱり四日市市議会をいかに強化するかというところで、やっぱりもう一度視点を考えてほしいんですよ。

不自由、制約ができるかもしれないけど、議長は2年のほうがいいのか、委員は2年のほうがいいのか、政策サイクルを確立したほうがいいのか、いろいろあると思うんですよ。4年間一緒にやるメンバーですから、一番いい議会の作り方という視点を、ぜひもう一度考えていただいて、会派で、また団体で、またご自分でもいいし、市民の皆さんとも議論していただいてもいいし。

そんなことで、きょうはいろいろいただいたやつは、また整理しておきますので、なるべく早くまた発信するようにしますが、引き続き、次回、もう少し整理した形で議論を詰めていきたいと思えますから、最初に私も言いましたが、議会強化のサイクルをつくる委員会ですから、そのところをぜひもう一度思い出してほしい。

もうちょっと言うと、役員選考委員会を早めようというのは、さっきの共通テーマを置くとか、その話し合いもせなあかんわけですよ。委員長の選び方も、もしかしたら早目に準備すれば変わってくるかもしれないので、その回りで5月にばたばたと会派バランスとか、2期だか1期だかで決めたのではどうかなということもあって、一つの極論だと思って考えてみてください。

そんなところで、きょうは終わりにしますが、また次回よろしくお願いします。ありがとうございました。

15 : 30 閉議